

オーストラリア GP：フィリップ・アイランドでバルタスが素晴らしい追い上げを見せ、6 位フィニッシュ。カネットはトップ 10 で終える

オーストラリア GP は、ファンティック・レーシング・チームにとって激しい戦いとなった。バルタスが見事な追い上げで 6 位チェッカーを果たし、カネットはトップ集団での激戦を繰り広げ、堅実に走り切りトップ 10 でフィニッシュした。



MotoGP 第 19 戦オーストラリア GP が、10 月 17 日から 19 日にかけてオーストラリアのフィリップ・アイランド・サーキットで行われ、Moto2 クラスに参戦するファンティック・レーシングのバリ＝バルタスが 6 位、アロン＝カネットが 9 位を獲得した。

オーストラリア GP の週末は、Moto2 クラスにとって難しいコンディションとなった。金曜日午前中のフリープラクティス 1 はウエットパッチが残る路面状況で始まり、午後のプラクティスにはドライコンディションに回復した。

強風や断続的な雨、そして常に変化する路面状況が、グリップのマネジメントをとりわけ難しいものにした。こうした天候や路面コンディションといった条件はすべてのライダーに平等であるとはいえ、日曜日の決勝レースに向けてセッティングや走りを詰めていくことが難しい状況であることは確かだった。

金曜日のプラクティスでは二人のライダーがそろって Q2 ダイレクト進出を果たしたが、土曜日は天候の影響を大きく受けた。フリープラクティス 2 では序盤に雨が降り、徐々に路面が乾いていく複雑なコンディションだった。このセッションで、バルタスは 4 番手タイムを記録し、カネットは無理をせずに計測ラップを行わないという賢明な判断を下した。

午後の Q2 はドライコンディションで行われたが、カネットが 1 回目のコースインのアタックラップで、4 コーナーで転倒を喫する。Moto2 クラスはスペアマシンを持たないため、転倒を喫したマシンを修復しなければ、再びコースインすることはできない。しかも、予選時間はわずか 15 分間である。

しかし、チームマネージャーのロベルト・ロカテリに助けられながら、カネットは自らマシンを押してピットに戻ると、ファンティック・レーシングのメカニックたちは 10 分足らずでマシンを再び走れる状態に整備した。まさに“職人技”の復活劇である。そして、コースインを果たしたカネットは、最後のアタックで 8 番手タイムをたたき出した。バルタスは 10 番手を獲得し、ファンティック・レーシングの二人のライダーは、ともにトップ 10 以内から決勝レースに臨むこととなったのである。

日曜日は天候に恵まれたが、海に囲まれたフィリップ・アイランドらしい強風に見舞われた。スタート直後、カネットは素早くポジションを上げ、すぐにトップ集団に加わった。レース全体を通してカネットは安定したリズムを維持し、9 位でフィニッシュ。チャンピオンシップにおける貴重なポイントを獲得している。

一方、バルタスは圧巻の走りを披露した。バルタスは 1 コーナーでの接触により、一時は 23 番手にまで後退する。しかし、そこから驚異的な追い上げを開始したのである。バルタスは上位陣とそんな色ない 1 分 30 秒後半から 31 秒前半のタイムを刻み、周回を重ねるごとにポジションを上げ、13 周目には 10 番手に浮上。驚異的だったのは、これほどにポジションを上げ、攻め続けていたにもかかわらず、バルタスのレースペースが終盤まで落ちなかったことだ。残り 5 周で 8 番手に浮上し、最終ラップではチャンピオンシップのランキングトップであるマヌエル・ゴンザレス（リキモリ・ダイナボルト・インタクト GP）をかわして 6 位でチェッカーを受けた。あらためて、そのポテンシャルと闘志を証明したのである。

二人のライダーがトップ 10 でフィニッシュしたことで、ファンティック・レーシングはチームランキングのトップを維持したまま、残り 3 戦に挑む。

次戦の第 20 戦マレーシア GP は連戦で、10 月 24 日から 26 日にかけて、マレーシアのセパン・インターナショナル・サーキットで行われる。チームは引き続き全力で取り組み、ランキング上位での戦いを続ける。



バリー＝バルタス：

今日の結果には間違いなく満足しているよ。けれど、もう少し上を狙えたとも思う。また今日も、優勝の可能性があったんだ。けれど、1 コーナーで他のライダーと接触して、最後尾あたりまで後退してしまった。そこからゴールまで、ひたすら全力でプッシュしたよ。全体的に見て、本当にいいレースだった。たくさんのライダーを抜きながら走るのはいつも気持ちがいい。

6 位という結果は理想的ではないけれど、何も得られないよりずっといい結果だ。マシンは今回も素晴らしかったし、レースを本当に楽しめた。今季のベストレースの一つだったと思う。来週、また優勝のチャンスがあると思っているよ。

アロン=カネット：

今日は厳しい一日だった。週末を通して全力を尽くしたけれど、レースではその努力を結果につなげることができなかった。フロントのフィーリング不足も影響した。週末を通して素晴らしい仕事してくれたチームに感謝したい。気持ちを切り替えて 1 週間後の次戦に集中したいと思っている。

ロベルト=ロカテリ（チームマネージャー）：

バリーは素晴らしいレースをしました。1 コーナーで接触し、外に押し出される形になりましたが、そこから表彰台と同等と言っても過言ではない、見事な追い上げを見せてくれました。今日のレースは（セナ=）アギウスのような優勝できるレースではなかったけれど、明らかにバリーには 2 位、3 位争いをするスピードがあったと思います。

アロンについては、週末を通して 100%ではなかったですね。レース序盤の数周のあと、少し後方で他車の動きを見ながら走る展開になりました。タイヤがすでに消耗していたため、ポジションを上げてトップグループに近づくチャンスがなかったのです。それでも集中を切らさずに完走しました。

私たちは挑み続けます。残り 3 戦、上位を争い続けることが目標です。

■Moto2 クラス チャンピオンシップ ランキング

	ライダー	チーム	バイク	ポイント数	トップとの差
1	M.ゴンザレス	LIQUI MOLY Dynavolt Intact GP	KALEX	247	
2	D.モレイラ	Italtrans Racing Team	KALEX	245	2
3	A.カネット	Fantic Racing	KALEX	212	35
4	B.バルタス	Fantic Racing	KALEX	205	42

■ライダープロフィール

アロン=カネット

1999 年 9 月 30 日生まれのスペイン人。2016 年にロードレース世界選手権 Moto3 クラスデビューを果たし、2019 年にはランキング 2 位を獲得。2020 年、Moto2 クラスにステップアップ。2024 年にファンティック・レーシングに移籍し、ポルトガル GP で初優勝を飾った。このシーズンは小椋藍に次ぐランキング 2 位を獲得。2025 年、チャンピオン獲得を目指す。

目下、最大の目標は「世界チャンピオンになること」。幼少期は父親からカートを与えられたが、「バイクのほうがいい」と言って乗り始めた。その当時からゼッケン「44」を使用している。

バリー=バルタス

2004 年 5 月 3 日生まれのベルギー人。2020 年に Moto3 クラスデビュー。2022 年に Moto2 クラスにステップアップした。初表彰台は 2024 年のカタール GP。この年、オートレース宇部レーシング・チームから鈴鹿 8 耐にも参戦している。2025 年、ファンティック・レーシングに移籍し、表彰台の常連になりつつある。なお、9 月 13 日に 2026 年もファンティック・レーシングから Moto2 クラスに参戦することが発表された。

バルタスの父親がバリー＝シーン（伝説的イギリス人 WGP チャンピオン）の大ファンで、そのためにバルタスは「バリー」と名付けられた。ゼッケンの「7」もこれに由来するもの。

